

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

平均正答率

本校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数	理科
深谷小	上回った	上回った	上回った
埼玉県	68	58	58
全国	66.8	58	57.1

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質 問 事 項	深谷小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	97.5	94.3	93.7
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	86.4	83.9	81.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	97.5	91.9	91.0
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	92.6	84.8	81.7
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	64.1	56.2	54.0
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	51.8	49.0	47.1
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上、読書をする	28.4	31.9	31.1
教科への関心	国語の勉強は好きだ	71.6	59.3	58.3
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.1	92.1	90.4
	算数・数学の勉強は好きだ	66.7	58.7	57.9
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	97.5	93.0	91.6
	理科の勉強は好きだ	84.0	81.4	80.1
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	87.7	81.7	79.9
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	88.9	84.7	80.3
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	75.3	75.7	68.6
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	80.3	82.8	77.8
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	91.3	87.9	84.9
その他	自分には、よいところがあると思う	93.9	88.5	86.9
	将来の夢や目標をもっている	91.3	84.7	83.1
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100	96.8	96.4
	今住んでいる地域の行事に参加している	87.6	83.5	81.3

【質問紙分析】

- ・「学校に行くのは楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は 95.1%で、全国や県の平均と比較して高かった。友達や教職員との関係についての回答結果からも信頼関係が築けていると考えられ、安心して学校に通えていると考えられる。
- ・生活習慣や学習習慣について、ほぼすべての質問で肯定的な回答の割合が全国、県平均を上回った。家庭が協力的で望ましい習慣が身に付いていると考えられる。
- ・自己肯定感や将来に向けての質問に肯定的な回答が目立った。児童と教職員が「深小プライド」をもち、学校教育目標「こころざし高く思いやりのある深小っ子の育成」にむけ教育活動を行った成果と考えられる。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○2三（思考力・判断力・表現力等 「書くこと」）

出題の趣旨は「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」である。授業の中で資料から必要なことを抜き出し自分の言葉でまとめる活動を多く取り入れたことで力がついてきたと考えられる。

○3三（2）（思考力・判断力・表現力等 「読むこと」）

出題の趣旨は「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」である。自分の考えを伝える時にどんな図表があればわかりやすいか考えたり、図表から分かることを読み取ったりする活動を教科横断的に行ってきた結果と考えられる。

●1二（知識及び技能 情報の扱い方に関する事項）

出題の趣旨は「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」である。インタビューを行う際、タブレットで記録し、何度も繰り返し確認できる環境が整ったため、メモを取ったり、思考ツールで整理したりする場面が減ってしまったためと考えられる。

【算数】

○2（2）（3）（図形 知識及び技能）

出題の趣旨は「台形の意味や性質について理解しているかどうか、角の大きさについて理解しているかどうかをみる」である。作図などの数学的活動を通して、図形の性質や角度の大きさ等を捉えられていると考えられる。

○4（2）（数と計算・変化と関係・データの活用 思考力・判断力・表現力等）

出題の趣旨は「伴って変わる二つの数量の係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」である。日常生活のどの場面で算数で学んだことが生かせるかふり返りの視点を与えたことが良かったと考えられる

●3（2）（数と計算 思考力・判断力・表現力等）

出題の趣旨は「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、

共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」である。誤答を見ると通分の仕方を説明している児童が多く、「単位分数のいくつ分」が書かれていなかった。通分は何のための行っているかを確認する必要があると考える。

【理科】

○**1** (2)

出題の趣旨は「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる」である。実験結果の数値からどんなことが分かってきたのかを分析し、考察できていると考えられる。

○**4** (1)

出題の趣旨は「水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」である。普段から条件制御の重要性を理解し、実験方法を立案している結果と考えられる。

●**2** (1)、**3** (2)

知識及び技能に関する問題で課題が見られた。実験や観察から分かったことを確実に定着させるため、繰り返し確認するとともに、単元の系統性を意識して教員が指導にあたる必要があると考えられる。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・国語だけでなく、他教科でも積極的に図表を使って自分の考えを説明する活動に取り組ませる。
- ・記号や図を用いて簡単にメモを取りながら情報を収集したり、思考ツールにまとめることで整理したりする活動と、タブレットを活用した活動を併せて行い、児童の情報活用能力を高めていく。
- ・読書に親しむ時間を確保し、語彙力を高めていく。

【算数・数学】

- ・公式の意味や計算の仕方等を覚えさせるだけでなく、どのように考えたのか、何のために行うのか明確にする。
- ・日常生活の事象から課題を見いだしたり、算数で学んだことがどの場面で生かせるかふり返ったりする時間を設ける。

【理科】

- ・1 時間ごとの学習内容を明確にするとともに、単元のつながりを意識した授業づくりを行う。
- ・理科支援員と連携し、実験や観察などの体験活動を充実させる。
- ・導入から振り返りまでのタイムマネジメントを行い、知識の定着を図る。